

世界に一本

私だけの帯を

思い切って作ってみたら…

自分だけの一本？

魅力的な話ですが、そんなこと、私にもできますか？

「お客さまとひとつひとつ対話しながら、

世界にひとつを作ります」

と、染織家の吉田美保子さん。

「世界にひとつ」が生まれる現場を

見せていただきました。



提案／染織吉田・吉田美保子
撮影／武藤奈緒美

好きなものやライフスタイル
互いに言葉を重ねながら
世界にひとつのイメージを
膨らませることから始めます

「染織吉田」では「only only」のブランドでオリジナルの帯や着物を作っています。「それぞれみなさんのこだわりに応えられるように 勉強することがいっぱいですよ」と苦笑いの吉田さん。というのもお客さまの要望は、いずれも感覚的なもの。それを理解するには、お客さまの考えはもちろん、どんなときにひらめいたのか、好きなものや趣味、ライフスタイルなど、細かにかがって、その人の気持ちを受け取らなければなりません。実に緊張感のある仕事です。今回のお客さまは、「ココさん。クレ」の展覧会で「リズムミカルな森のラクダ」という絵を見て「この絵を帯にしたい」とピピッときたそう。それから何回も打ち合わせを重ねます。まずクレの絵を探し、「ココさんのお好きなものや合わせたい着物

を見せていただいてから、クレの絵を自分なりに解釈。「ココさんはこの絵のどこにひかれたのだろう」。そんな自問自答を繰り返しながら、5m帯全体のデザインを考えます。1回目のデザインチェックでは、お客さまの希望に合っているかどうか方向性の確認と、こまかな調整。その返事をいただいてから再度修正してチェック。また修正してチェックと、今回は3回繰り返しました。「場合によっては2年かかることもよくあるんです」と吉田さん。たった1枚をクリエイトするのですから、糸選び、色、デザイン、織り方など、打ち合わせは真剣です。デザインを決めつつ試し織りをして、仕上りの雰囲気や色の調子を整えたら、仕事の8割は終わったようなもの。「あとは楽しく織っていきます」



「打ち合わせはできる限りお会いして行きます」と吉田さん。

1

「ココさんの「好き」はクレートの「リズムミカルな森のラクダ」



1 イメージを相談する
お客さまとの打ち合わせ。イメージするものなどを見ながら行う。

2 たたき台デザインをつくる
相談した内容から作家としての解釈を深め、デザインを起す。

3 何パターンも検討
全体のイメージ、色柄のバランスなど、何度もデザインを起す。

4 試し織りと、さらなるイメージを相談
ある程度デザインが整ったら、使う糸を提案。仕上りの質感なども。

5 最終デザインが決定
全体のデザイン、織りの風合し等を決める。お客さまの意向をメモする。

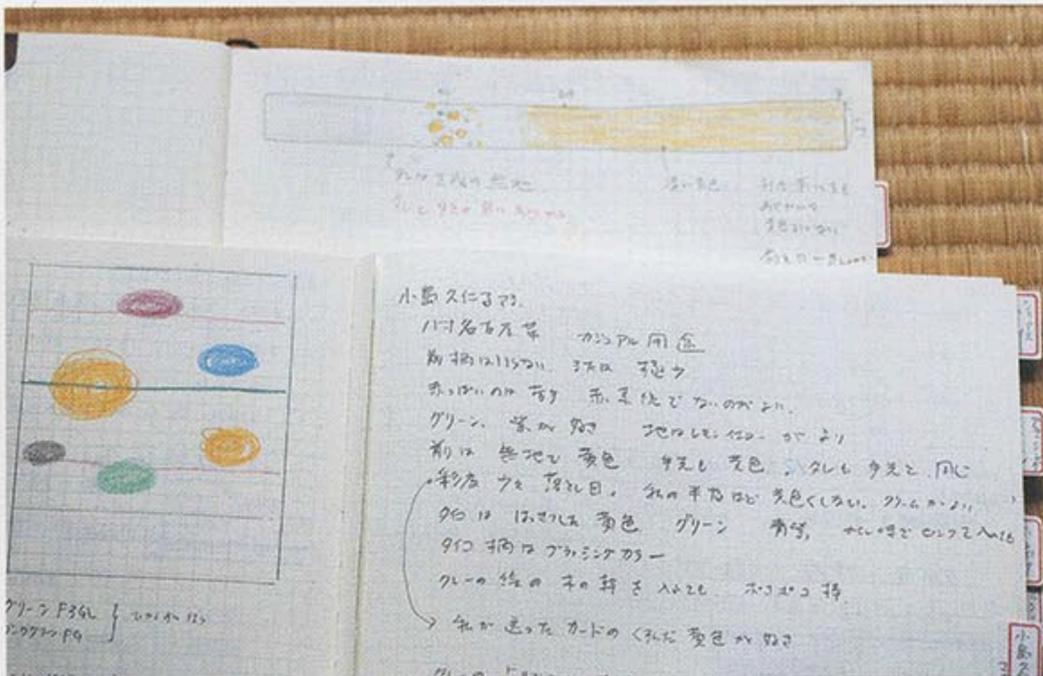
6 実際の色出し
実際に使用する色を、試し織りを見ながら調整し、染料を準備する。

7 本番用の糸を染める
使用する糸を染める。壁には原点になった絵を飾ってイメージを高めて。

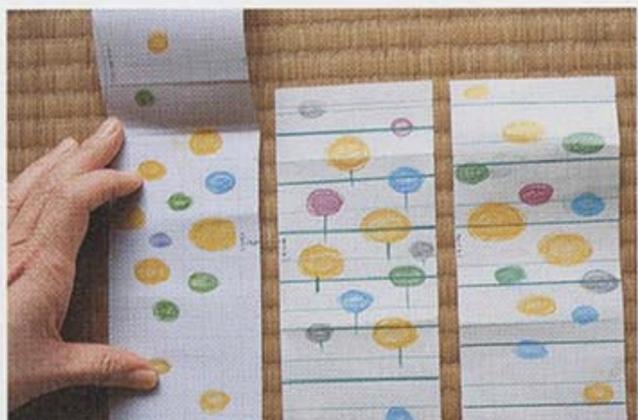
8 織る
ここまでできたら90%完成。経糸を織り機にかけ、織って行く。楽しく、リズムミカルに。

9 でき上がり 旅立ち
糸見本、染料見本をつけた手紙とともに、お客さまの元へ。

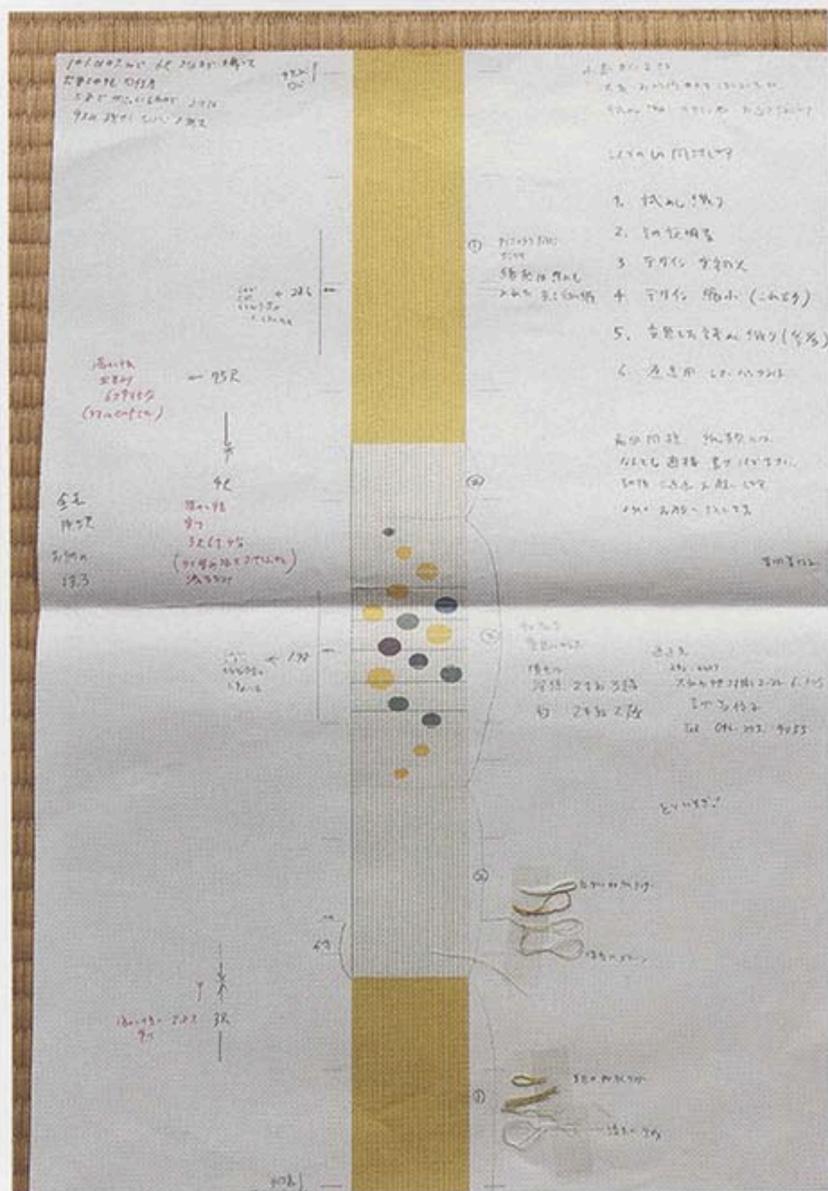
2



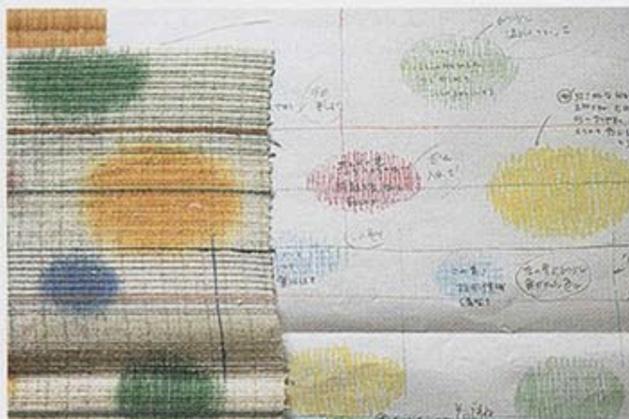
3



5



4



6



形、色、大きさ、配置
 何度も試作を繰り返す
 この作業が 年2年かかることも

9



8

糸を染めたら
 ひたすら織る

7



クレーの絵からラクダは除き 樹の形と横のラインで構成した。数も減らして シンプルに。

織り上がった帯のタイトルは「リズムミカル・ニコ」前はすっきり、後ろは楽しく

「この帯を見ると

元氣になります

着姿を見た人の目もきつと

楽しませてくれるはずですよ」

「コさんが着物を着るようになった20代のころは お茶会用に母と選んだ小紋や付け下げがほとんど。結婚後は着る機会が減



30代から着ている 鈴木芋紡庵さんの紬とのコーディネート。半襟も水玉に。たれは無地にしてシンプルに。



吉田美保子さんの
展示会があります

「三角 吉田」が今回のテーマ。二角をモチーフにした楽しい八寸帯がずらりと並ぶ。2015年10月29～11月1日 イト サキにて。東京都港区南青山4-1-5 KFビル2F TEL 03-6721 1358 イト サキ itonosaki.tokyo/ 染織吉田 someoriyoshida.com

つていましたが「40代に着物熱に火がついて 紬もまとうようになりました。着物雑誌を見てはコ デイネ トを考えるのが楽しみで」というニコさん。今はシンプルな着物をさつそうと着こなします。

今回吉田さんの「only only」

にお願いしたのは 欲しいデザインに出会ったことと それを60歳の記念にしたかったからでした。「吉田さんの人柄と作風にはれ込んで いくつか自分だけの帯をお願いしたいと思っていました」。

その後、ニコさんと吉田

さんは何度も話し合いを重ねようやく「世界にひとつ」ができ上がりました。その名は「リズムカル ニコ」。クレ の絵のタイトルとニコさんの名前から取った帯は 黄色が目になわやかで 楽しくなる 本です。「お客さまと対話すると 本当



帯前は黄色一色に。「前から見た印象と後ろの印象が違います」

水玉がかわしくて 元気が出る 最高一本に仕上がった。自作の着物をまとう吉田さんと。



楽しい帯だから 足取りも軽やか。40代から愛用している藍染めの古志紬に合わせてお出かけ。



バッグは紬地と自然素材で作られたもの。単衣の季節のお気に入り。小ぶりなのによく入り 使いやすい。